

西光寺だより

第七十九号 平成二九年 三月一日発行

●今月のことば●

いよいよ最後の結びの部分です。

これまで親鸞聖人は、阿弥陀さまが本願を発された由来について述べられ、お釈迦様が『仏説無量寿経』をお説きになり、阿弥陀さまの本願の私たちに知らせるためにこの世にお出ましになられたことを、歓喜とともに述べられてきました。

そして七高僧が本願念仏の教えを正しく伝え、本願のはたらきに目覚めるよう促してくださいましたからこそ、浄土真宗の基盤となる教えが親鸞聖人ご自身のところへ正しく伝えられたことを、感銘深く述べられました。

弘経大土宗師等・・・『無量寿経』の教えを弘めて下さった真宗の祖師がたは

拯済無辺極濁悪・・・すべての極濁の悪人を、数限りなくお救い下さる

道俗時衆共同心・・・出家者（道…どう）も在家者（俗…ぞく）も、一切の人々は共に心を同じくして

唯可信斯高僧説・・・ただよくこの高僧がたの説かれたことを信じなさい

（レッツ正信偈・真宗の教え参考）

【解説】

●**弘経大土宗師等**・・・弘経は『無量寿経』の趣旨を弘められたこと。大土は龍樹菩薩・天親菩薩。宗師等は曇鸞大師・道綽禪師・善導大師・源信和尚・源空聖人のことであり、「真実の経を弘められた七高僧」という意味でありません。

●**拯済無辺極濁悪**・・・拯済は救い助けること。無辺は限りないこと。つまり

七高僧の方々が、本願の教えを伝えてくださったのは、極めて濁りきった悪世に生きて苦しまなければならぬ、数限りない人々を救いとり、本当の安楽にわたらせようとしてくださったためであると、聖人は感嘆しておられるのであります。

そもそも、お経というものは、お釈迦さまのお言葉を文字にしたものですが、そのお経をそのとおりに読み説くのは大変難しいことです。人は、自分に都合よく理解できる範囲のことしか、理解しないからです。七高僧は、お経を弘められた方でしたが、龍樹菩薩・天親菩薩の二菩薩は、お釈迦さまのご真意を正しく深く説かれ、そして、曇鸞大師・道綽禪師・善導大師・源信和尚・源空聖人は、二菩薩の教えに沿ってお経の本意を正しく読み説かれました。

七高僧のまとめ

- ① 龍樹菩薩は仏道を難行道と易行道とに分けるといふ「難易二道」を説き、易行道である阿弥陀仏本願の念仏を勧められた。
- ② 天親菩薩は『浄土論』を著し、阿弥陀仏におまかせする一心の信心の大切さを教えられた。
- ③ 曇鸞大師は天親菩薩の『浄土論』を註釈して『往生論註』を著し、「自力他力」を説き、他力の道を勧められました。
- ④ 道綽禪師は、『安楽集』を著して、仏道に聖道門と浄土門を説き、浄土門を勧められた。
- ⑤ 善導大師は、中国浄土教の大成者で、『観無量寿経』を註釈した『観経疏』で、仏の正意を明らかにされた。
- ⑥ 源信和尚は『往生要集』を著して浄土信仰の根拠を示され、報土を願う者に本願称名を勧められた。
- ⑦ 源空聖人は、『選択本願念仏集』によって浄土門を独立し、他力の念仏はただ阿弥陀仏の選択本願にあることを示された。

●唯可信斯高僧説・・・「ただよくこの高僧がたの説かれたことを信じなさい」
このようにして、親鸞聖人は信心をお勧めにされました。

七高僧は あわれみ
われらをおしえ すくいます
世のもろびとよ みなともに
このみさとしを 信ずべし

(しんじんのうた)

以上で『正信偈』(六〇行百二十句の偈)が終わります。

今までみてきても分かりますように、正信偈の冒頭は親鸞聖人の信心の表明であり、正信偈全体の総括されたお言葉のとおりであります。

「私はいつでも、どこでも、常に一緒にいてくださる阿弥陀如来に、すべておまかせします。みなさんも、どうか、正信偈をご縁として、阿弥陀如来のすべての人々を平等に救う本願を信じてください。」

だからこそ、今という現実を精いっぱい安心して生きてもらいたいという思いを味わいたいものであります。

そして、今までみてきたように、いくら教えが素晴らしくてもそれを伝える人がいなければ伝わる事ができません。色々な人たちのご縁によって、出会いによって伝えられてきました。このように考えてみますと、この現代に生きる私たちも、決してひとりではなく、尊い出会いのつながりによって生かされていることを教えていただけることとございます。

この正信偈をとおして親鸞聖人のお心を感じるとともに、人とのつながりの上に今があるという大切なご縁を改めて感じていただけたらと思うこととあります。

本願寺第八代宗主・蓮如上人が、
この『正信偈』に、親鸞聖人が和文の
詩で念仏の喜びを讃えられた「和讃」
を加えて『正信念仏偈・和讃』とし、
日常勤行にされました。

合掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一―七―二

電話 〇七二―六二二―四七九四

FAX 〇七二―六二二―九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>

◆三・四月の行事◆

・三月二十五日(土)

仏教婦人会総会・追弔会

午前十一時半～追弔会・昼食

午後一時～総会

西光寺本堂

・四月十五日(土)

春季永代経法要・追弔会法要

午後一時半～追弔会法要

午後二時・七時 春季永代経法要

西光寺本堂

◎御法話 本願寺派布教使 植木 政隆 師(速證寺)

・四月二十八日(金)

第二五代専如門主伝統奉告法要団体参拝

午後二時より(ご案内のとおり)

京都西本願寺